令和４年度第２回うらわ美術館協議会会議録

１ 日　時　令和５年３月２２日（水）午後２時３０分から午後４時１５分

２ 場　所　さいたま市役所第二別館第１会議室

３ 出席者　大越委員（会長）、小澤委員、内藤委員、北原委員、西村委員、加藤(有)委員、斎藤委員、三村委員、渡邉委員
細田教育長兼館長、山浦生涯学習部長、酒井副館長、清水係長、山田係長、梶主任

４ 次　第
開会
議事
（１）　令和４年度事業報告について
（２）　令和５年度事業計画（案）について
（３）　その他
閉会

５　議事内容

副 館 長　　皆様こんにちは。本日はお忙しいところ御出席いただきましてありがとうございます。
開会に先立ちまして、細田教育長兼館長より御挨拶申し上げます。

細田教育長兼館長　《挨拶》

副 館 長　　ここで大変申し訳ございませんが、次の予定がございますので、細田教育長兼館長は退席させていただきます。

［配布資料確認］

副 館 長　　これより先は、うらわ美術館協議会規則第３条の規定により会長に議事進行をお願いいたします。大越会長、よろしくお願いいたします。

大越会長　　それでは議事に入りたいと思いますが、出席者は９名、欠席者は１名ですから、今回会議は成立します。事務局にお尋ねしますが、傍聴希望者はおられますか。

事 務 局　　おられません。

大越会長　　傍聴希望者なしということで、次第にしたがって進行します。令和４年度事業報告について、事務局から説明をお願いします。

事 務 局　《令和４年度事業報告》

大越会長　　ただ今の報告に何か御意見、御質問はありますか。

加藤委員　　前年度と比べ入場者数が少し減っていて、せっかく良い展覧会をしているのに少し残念だなと。それを増やす一つの施策として、うらわ美術館はとても入館料が安いのですが、今は特別展だとほとんどの美術館は 2,400 円とかするのに 600 円ぐらいで入れるというようなことを、下品にならないように、何かしらの形で強調してもいいのではないかと思います。少し普通より安い、それは市の補助とかがあって安いということを言って、より来る理由になるようになればいいのではないかと思います。

大越会長　　そうですね、近年では相当安いですね。

加藤委員　　やはり今美術館に行くのを躊躇する理由としては値段だと思います。例えば３箇所ぐらい梯子すると 1 万円ぐらいになってしまい、それで躊躇している方も結構いらっしゃると思うので、浦和の街中に安く 1000 円以下で入れる文化施設があるというのは、もっと知らせていいのではないかと思います。

大越会長　　ありがとうございます。確かに前年と比較すると入場者は少ないようですね。

副 館 長　　昨年の比較対象が、5～6 月でミュシャ展だったのですけれども、ミュシャ展が実は過去３番目の入館者数だったもので比較対象がまずそれであることとともに、今回 22 周年展として地元に特化した展覧会になっておりましたので、なかなか外部からお越しいただくというのが難しかったのかなというところも感じております。来館者アンケートによりますと、珍しくこの展覧会は 7 割ぐらいが市内の方ということで、なかなかそういった展覧会はないのですが、そのような特性から、来館者数が伸びなかったのかなというようなところがござい

ます。

大越会長　22 周年展は展覧会としては評価が高かったように思いますけれども。

小澤委員　図録が特に良かったと思いました。あまり人数にこだわる必要はないのではないですか。来館者数を見ると、硬派な展覧会は人数が入っていないようですが、数に踊らされて少ないからダメということではなく、大事な展覧会ですから、そこは貫いたほうがいいと思います。そのあとに開催した雰囲気のかたち展を見ましたが、あれは少し難しいかなと。なかなか共通事項を見つけるのは難しい感じがしたので、私ですらそう思うということは、一般の人はその辺どうなのだろうと、少し私は疑問でした。

斎藤委員　雰囲気のかたち展ですけど、とてもネーミングがおしゃれでキャッチーな感じがして、そうしましたら若い友人が名前がいいから行ってくるというので、結構若い世代が来館していたような気がします。それとあわせまして、私は浦和パルコの広報フロアにも行って参りました。それはネットで見て行ったのですけども、パルコに着きましたら、1 階の入口のところに何の案内もなく、それで場所を聞いて行きましたら、そこが良く言えば品が良く、悪く言えば密やかすぎるぐらいの感じで、せっかく御協力をいただけるのでしたら、もう少し入口のところに、その階にまで導入できるような立て看板でしたり置いて、広報フロアではついでに入館料の案内等も出したらいいかなと思いました。見ている方が若く、結構興味深そうに見ていたので、せっかく協力いただけるなら、もう少し一歩踏み込んで、派手というのはおかしいですけれども、わかりやすくしていただけたらいいなと思いました。

加藤委員　私はどのような広報か見ていないのでわからないのですけど、浦和パルコでしたら映画館にいらっしゃる方が文化施設に興味ある人達の層なので、映画館の例えばチラシ置き場に置かせてもらうですとか、そういうふうにすると効果があるかと思います。

内藤委員　22 周年展あたりは、まだコロナに対する一般の方の入場する意識が消極的だったのではないのかなとは思いますけれど、お客様が入ってなかったわけではないですからね。皆様に地元のことについて効果的に知ってもらえたのではないだろうかと思います。

大越会長　そうですね、前期と後期合わせまして 7,000 人近くの方がいらっしゃってますから、すごく少ないわけではないですよね。私は雰囲気のかたち展も良かっ

たと思いました。丁寧に作られていましたし、タイトルを裏切らない良い内容でした。展示もゆったりとしていましたし、何となく全体がもやもやっとした感じで、不思議な空気感に包まれていて、あれは面白かったなと思います。

加藤委員　雰囲気のかたち展はＳＮＳで結構話題になっていました。例えば他の美術館の学芸員の方がツイートしてたりとかして、割と話題になってました。

大越会長　そういう意味では確かにちょっとマニア向けであったかもしれません。展覧会以外の面ではいかがでしょうか。

三村委員　館内へ学校の団体を受け入れるよりも、学校に出向いたり、または教材を貸し出すことが主になっているようですけれども、そういう方針になさっているのですか。

副 館 長　これは学校の要望に応じてではあるのですけれども、コロナ禍で学校に行くこともなかなか難しい状況になりまして、行けないのであれば学校に貸し出してと、そちらの方にシフトしたわけなのですけれども、今年度については、少しずつ状況が戻りつつありますので、学校の方にも積極的に出向けるようにはなってきてはおります。

大越会長　5 月頃を目途にいろいろと復活の兆しが見えておりますので、うれしいことです。三村委員の学校ではオンライン授業というのは体験されたのですか。

三村委員　いえ、本校では体験しておりません。

大越会長　実施校数は 2 件ですね。

三村委員　あとは教員向けの夜の美術館みたいなものもやっていただいていますし、美術館の指導主事の方が学校に来ていただいたり、物を貸し出していただいたり、結構それは学校では人気で、美術館に行って本物を見てみたいなとか、そういうことにつながっていく授業になっています。

山浦部長　いろいろと客観的に見ている中で、職員たちは興味を持ってもらうにはどうしたらいいか、来館者を増やしていくにはどうしたらいいだろうかということをコロナ禍に考えました。子どもたちが移動するのはなかなか難しいけれども、職員がオンラインを活用すれば、コロナ禍が終わった時に、子どもたちにあのような素敵な場所があるという記憶が少しでも残っていれば、いずれ大人になっ

た時にも足を運んでくれるだろう、そういうコンセプトで始めました。今三村委員にそれは非常に良い取り組みだというふうにおっしゃっていただいたのですけれども、まだ件数が少ないので、これをどういうふうにしていったら広げていくことができるかなという、ちょうどスタートに立った状況ですので、また今後も皆さんのお知恵をお借りできればありがたいと思っていたところです。特に今回、指導主事だけでなく学芸員が専門的な目からオンラインを通して美術の楽しさについてコメントをしたときに、子供たちの目の輝きが変わった瞬間を見まして、すごくインパクトがあることだなと感じました。

北原委員　今皆さんが、入場者が多いか少ないかという、それも大事でしょうが、今度は質の問題で、やはりオンラインではないほうがいいと私は思います。オンラインで本当の教育ができるかというと疑問に思います。人間と人間が結びついて教育ができるわけで、人間の感性みたいなものはオンラインから伝わっていかない、美術品は色であり形であり、そういった中で教育の効果をあげるということは無理だと思います。ですが、コロナ禍だからということで、教育もそういうことになり、出歩けないから会議もオンラインでやってしまう、それでは対話ができないと思います。ですから、人間と人間が結びつけあう場を機械を通してやるという大変な負の遺産をこれから作るのではないかと。そうなった時に、美術教育は何かと。人数が多い少ないは問題ではないのです。1枚の絵がその人の人生にとってどんな力があるか、浦和の住むところにこんな画家がいて、こんな風に住まわれて、こんな絵を描いたということがどういうふうに人の人生に関わっていくのかを展覧会というのは考えないといけません。ですが、今のコロナ禍では大変だと思います。以前のタイガー立石展を見てやはり作品が多すぎる、あれを見ると疲れてしまう。疲れるような展覧会では良くない、見なければならないという義務で。そしてミュシャ展はびっくりしました。会場が若者で混んでいるのです。何の力があるのかなと思い、その二つを比べてみましたが、なかなか展覧会というのは難しいなと思います。ですから、開催する側は感想を取るだけでは駄目なのです。そういう感想を書くように子どももなってしまうのです。例えば、昔から読書感想文があって、果たしてそれが子供の発想でできてるかということです。本を読みなさいと課題図書が出て、子どもたちが本当に思っていることかどうか。絵もそうだと思います。言葉で言えないものもあると思うのです。面白いなと足が止まってしまう。ですから現代美術の良さは、少し変わったことがあって面白いなと思って見ている、まず面白いということが興味を持たせられるものであるということは、子どもにとって大事です。そんなふうに考えてくると、これからの美術の展覧会というのは、教育者や美術家がどれだけそういったところをつかんでいけるかということが、これからの可能性として面白いと思います。大越会長も長年関わって

いらっしゃっていかがでしょうか。

大越会長　委員の皆さんは、作り手側の立場なので、内心、北原委員の意見に強く賛同しているのではと思いながら伺っておりました。一般に今私たちは、オンラインはチャンスは広げたのだろうと言っています。それまで触れる機会の無かった人たちにチャンスを与えることができたということで前向きに捉えられています。ただやはり美術館としてはどれだけ人が戻ってくるのか、新たな興味を沸き立たせることができるかというところが大切で、これは実はまだ何も証明がなく、効果もわからないので難しいですけれど、おそらくうらわ美術館も、これだけでいいとは思っていないと私は感じています。どうやって実際に足を運ぶという次の行為につなげるか、或いはその子たちがまた何年かして戻ってきてくれるか、その辺は長い目で見ないとわからないかもしれません。

事 務 局　オンラインの鑑賞学習では、子供たちの発言等、興味深いものでした。雰囲気のかたち展の最終日の２日前に実施したのですが、その後最終日にかけて子どもの姿が少し多かったかなという気はしました。子どもが親を連れて一緒に説明している姿もあったので、そういった点では良かったかなと思います。ただ、今本当におっしゃってくださったようにやはり美術館は本物に触れてこそのところですので、そこを大事に本末転倒しないように考えていきたいと思います。

小澤委員　学生たちに教えていて思うところは、彼らはＳＮＳで投稿することが一つの表現なのです。ＳＮＳ上で映えるということは彼らにとって最も大事なことで、今は筆で描かずタブレットで描いています。そうするとこれはオンライン、デジタルですから実際に見るということが、画面で見ることと同じことなのです。私の授業でも半数以上の学生は全部デジタルで作ってくるので Zoom の授業の際はすごく良くて、手描きのものを写真で撮って Zoom に載せるとそれはやはり作品が死んでしまいます。タブレットで描いたものをそのままモニター上に載せると、それはオリジナルですからもっとも美しく見えます。彼らはそれで美しいと思っている、そういうものを作りたいと今は感性が変わってきています。彼らはおそらく SNS 上のデジタル画像でＯＫなのです。そういった時代が来ていて、その人たちが将来、美術の先生になるわけですから、彼らは教える時にやはりかなりデジタルで教えることになる。そうすると我々が感じているような美術に対する感性と違うもので教育していくということが、至るところで感じております。ここに座っている人たちは手描きで描いている人たちですが、今の若い人たちはそうでない子も多い。そういうことも含めて美術館の活動をどうしていくか考えなければいけないと思います。

大越会長　おっしゃるとおりですね、おそらく言葉の表現ですとかも、若い人たちは別の言語感覚を持っていると思うので、そのあたり加藤委員は得意分野なのではないでしょうか。

加藤委員　今は言語というと人工知能が非常に高度になってきていて、そういうものと一緒にやっていかなければいけないという、非常に厳しくもあり面白くもある時代ではあると思います。

斎藤委員　おそらく美術と言ってもデジタルのものも本物なのです。ですがやはり私たちはフェルメールの作品が来るとなると大騒ぎではないですか。他には印象派の作品を見ると、ゴッホの前で立ちすくむということはやはりあります。本物の迫力。ただ、デジタルも本物だと思うのです。両方本物であるのですけれども、例えば今、美術館の方がなさっているのは、種まきだと思うのです。いろいろな種類の種をまいて、その中で育っていったり、全然興味がないやと思ったりあると思うのですけれども、ただそのオンラインで見たものを今度自分が見たときに、あの時の絵じゃないかとか、雰囲気のかたち展では、大人でもこういう図録等で横山大観の作品を見ていて、目の前に作品があったとき、これが本物の横山大観の作品なのねと、私たちの世代でも、そういうことがあるのです。本物を見ていくその芽を育てていくというのが、大事なのではないでしょうか。感性はそれぞれあって、どの本物でもいいからその人に合った本物を探していく。美術館の方がなさってるのは、そういう種まきだと思っています。

加藤委員　本物を見せるということは重要で、私は結構デジタルに傾いている人間ではありますけど、例えばダイヤモンドを鑑定する人は本物のダイヤモンドしか見ないと言います。そういう点で、本物の実物を見せるということは非常に重要なことだと思います。

大越会長　これからの学芸員はその辺の知識も得ながらいろいろなことに対応していかなければなりませんね。

北原委員　文字を書くことについてワープロと肉筆では表現が違ってきます。今はワープロの時代ですが、肉筆で書いたものは味わいがあると思います。ヒヤシンスハウスでは会員に対して台風などで急な休館情報をメールでお知らせしたらと言われますが、私はそれをしないのです。あまりにも拘束されることが嫌だなと思いまして、ですから宣伝もほとんどしません。ホームページはありますから関心のある人はきちんと調べて来ます。それをずっとやっていると日々関心のある人が来るということになり、あまり来る人が多いとか少ないとか問題に

ならないようにして、ただし来た人にはしっかりと説明をして良い場所だったと分かってお帰りになってもらう。実物を見ることと写真等で見ることは少し違うなというのが私の感覚なのです。デジタルについて先ほどお話に出た考えもあるのだと思いますが、本物に触れさせるということも必要だと思います。

大越会長　ありがとうございます。ぜひ直接足を運ばれたお客様を大事にして質の高い鑑賞を提供してくださるとうれしいです。

それから資料の一番最後の、支援学校の子どもたちや障害のある方への取り組みについて、この会議でもたびたび話題になっておりますが引き続き頑張っていただければと思います。西村委員はいかがですか。

西村委員　国でも障害を持った方たちに向けての法律もできましたので、すべての人に開かれるようにお願いしたいと思います。

大越会長　そうしましたら、続きまして令和５年度の計画をお願いします。

事 務 局　《令和５年度事業計画説明》

大越会長　ご意見がありましたらどうぞお願いします。

北原委員　歌川国芳展はとても良い企画だと思いますが、この説明は少し難しい。どういうふうにこれを皆さんにわからせるか、例えば「斬新で豊かなアイデアを次々と出し続け」とあるが、例えば斬新とはどういうことが斬新なのか、豊かなアイデアとは何なのか。まず約 160 点の作品を見るということは大変で、相当解説があって、こんなところが面白くてというものがないとあまり効果がないです。ですから多くの人はさっと見て終わってしまう。どうしても解説というのは、一言で言えばこうと簡潔に言いがちです。それで済まされちゃうかもしれないですが、ここは一つ踏みとどまって、どうやったら見る人が喜んでくれるかなと頭の隅に置いておくと解説が違ってくるのかなと思います。

加藤委員　タイトルの奇想の絵師というのはウケると思います。今変わった絵が流行っているので、さきほど小澤委員もおっしゃっていたようなＳＮＳの時代なので、こういった表紙になっているような奇抜な絵は、とてもウケるのではないかなというように思います。あとは、人を増やしたいのでしたら、写真を取れる絵を増やすという、結局それが一番増やすことになるのではないかと思います。ただ保存の関係でフラッシュは難しいかもしれないのですけれども、アクシデントでフラッシュたいちゃってというようなことを考えると、あまり写真

をＯＫにすると危ないかもしれないですが、やはり写真をＳＮＳにアップできるかというのが結構重要なポイントになってくると思います。

事 務 局　それについては雰囲気のかたち展と、その前年のミュシャ展と同時期のコレクション展で、気に入った作品を１点だけ撮影 OK という試みでやっています。それがとても好評で、「うらわ方式」や「なるほど、良いアイデア」と言われ始めているのですが、撮影したいという要望と、音がうるさい・見えないという要望と拮抗していく中で、能動的に見る、自分に気持ちを向けるという鑑賞の一つの深まりとしてやっております。そういったことも続けていきたいと思っています。雰囲気展の時は著作権が多く関わり、所有者の許可も何十件取り効果的でした。皆さんが自分の気持ちと向き合いながら楽しんでいただけたように思われ、おっしゃるように、SNS でコメントとともに画像が出るので、非常に良かったと思っています。今後も著作権のこともありますが、可能な範囲で続けたいと思っています。

小澤委員　ブラチスラバ世界絵本原画展の日韓の絵本作品中心というのは良いですね。韓国の絵本はすごく良いのですが、翻訳されているものが少ない、それがすごく残念です。

事 務 局　BIB 展は２年毎の巡回展なのですが、巡回と同時に翻訳されるものも多少あります。

小澤委員　申先生という方と知り合いなのですけれど、あの方は韓国人で、韓国の絵本を積極的に紹介されていて。ああいう方の講演会をやられるといいと思います。

事 務 局　実は今回すでに講演会や現地調査、翻訳等でご協力いただいていております。

小澤委員　そうでしたか、これをきっかけにぜひ翻訳してもらって、韓国の絵本を読みたいですね。

内藤委員　歌川国芳展の奇想という言葉、奇想という言葉自身はかなりポピュラーな言葉になっていると思いますので、あまり難しく考えなくても、もうこの言葉で非常にわかりやすいのではなかろうかと思います。細かい解説というのは読むか読まないかは、人によってわかりませんので、やはりある程度とっかかりのある言葉というのが幾つかあれば、あとは見る人に任せるという形で大丈夫なのではないかなとは思います。

大越会長　点数が多くて、しかも歴史的な背景等を書かねばいけない展覧会の場合は、その都度皆様から苦情が出ていると思いますが、北斎、芳年とこれまでの経験値があると思いますので、解説にも何らかの工夫があればいいのかなと思います。読みたくない人は読まなくて良いという持っていき方ができればいいですよね。斎藤委員いかがでしょう。

斎藤委員　特に浮世絵は 1 点ずつ見ていくと、フラットな長方形の大小をずっと見ていくのでかなり疲れるのですよね。それに解説を読んでというと、どれだけ時間がかかるのという話になりますので、そこは鑑賞者を少し信じていただいて、その人の気分でこれは読まなくてもすごく良い、これは何なのだろうという時に解説を見てこういうことだったのかというふうに知るというチャンスを与えるという、ある程度鑑賞者の方の気持ちとか実力を信じていただいてもいいかもしれません。

大越会長　ありがとうございます。休館中、作品の引っ越し、その他とても裏方は大変なことが待ち受けていると思いますけれども、くれぐれも事故の無いようによろしくお願いいたします。西村委員は何かございますか。

西村委員　さいたま市民大学の美術コースというのは、内容はどのようなことをやっているのですか。

事 務 局　今年は展覧会の解説を裏側含め実施しました。22 周年展の章ごとに学芸員がオンラインで丁寧にわかりやすく 3 回に渡って解説しました。おかげさまで満足度が 100%という非常に高い結果で、市民大学には様々なコースがありますが、特に美術館のコースは好評でした。

西村委員　展覧会に関することをやっているのですね。

事 務 局　展覧会に紐づいて興味を引いてもらえそうなことを解説しています。

大越会長　他に御意見なければこれでよろしいでしょうか。これで本日の会議を終了させていただきます。